町長室からこんにちは

No.82

一宮町長
馬淵 昌也

4月3日、釣ヶ崎から太東海岸にかけてカズハゴンドウというイルカが30頭余りも渚に押し寄せる事件があり、一宮町は俄然ニュースの的となりました。私も現地へ赴き、状況を確認しました。当時、30人ほどのサーファーの方が、子どもさんから比較的年配の方まで、強風と波浪の中、海に入ってイルカを懸命に沖に戻しておられました。私もお手伝いしたかったのですが、ウェットスーツもなく、断念せざるをえませんでした。

17年前にも、同じカズハゴンドウが一宮海岸にたくさん上がってしまったことがあります。その折は、関係者の方が何頭か太東港に避難させましたが、結局すべて死んでしまったと伺いました。

こうした現象は各地で報告されていますが、原因など、いまだ明らかでないところがあります。今回も、暖かい水域から冷たい海流に入って身体が麻痺して海岸に流されたという説、妊娠したメスが病気になり、それを守りながら海岸に寄ってしまったという説、漁業者の方の説として、サメに追われたのではないかという見方など、色々な見方が示されていますが、はっきりしたことはわかりません。また、対応についても、イルカを沖に戻すのがよい、という説、かえって苦しませるから放っておいた方がよい、という説など専門家の間でも様々なようです。なお、イルカを素手でさわると、細菌感染などがありうるということで、救援に参加された鵜沢清永議長のお話では、何人か、後に大腸菌による下痢とおぼしき症状が現れた方がいたそうです。幸いどなたも軽症だったということです。

いずれにせよ、私個人としては、現場で、強い風や波にも関わらず、何時間も費やしてイルカの救助に努められたサーファーの方々のお姿を拝見して、胸が熱くなりました。放っておいた方がよい、という方もいらっしゃるのは、右にも記したとおりですが、目の前で上陸して死んでゆくイルカの群れをみて、なにをおいても命を助けたい、と思う一心で、救援に当たられた皆さんのお気持ちに、強く共鳴致します。皆さんの、「やむにやまれぬ」心に発した行動に、深い敬意を捧げます。